

Book Review

《視能学エキスパート》 ロービジョンケア

公益社団法人 日本視能訓練士協会 シリーズ監修 新井 千賀子, 田中 恵津子, 阿曾沼 早苗, 石井 祐子 編

ロービジョンケアは、眼科医療の力が及ばず視覚障害を背負った患者さんが、保持する能力を最大限に活用して充実した社会生活を営むためにある。患者さんは視力を失う過程で必ず眼科で治療を受けている。眼科医、視能訓練士をはじめ、看護師、社会福祉士、その他すべてのメディカルスタッフには、患者さんの視機能や心理、身体状況に応じた適切な対応が求められる。

本書では、ロービジョンケアのスタートとして、視力、視野、コントラスト感度、光順応、眼球運動、色覚といった残存視機能を評価し、その結果に基づいて年齢や生活背景に合った視覚補助具を選定する流れが詳細に解説されている。また、患者さんが希望する仕事や社会活動を遂行するために、保有視機能はもとより、聴覚、触覚などの他の能力も加味した読書能力を評価し、目的に応じた読書訓練を行う手順がわかりやすく記述されており、一読すると視覚リハビリを習得できる。

タブレット、暗所視ゴーグル、RETISSA Display IIなどの新しいテクノロジーを搭載したロービジョン支援機器の紹介もあり、時代に即したケアの情報を得ることができる。外出に際しては、視覚障害者の心理や環境を踏まえ、社会で安全に活動するための白杖、盲導犬を用いた歩行訓練の進め方、さらには internet of things の活用や視野障害を抱える人への運転アドバイスの言及もあり、ロービジョン者の行動範囲を広げ

る未来志向のケアが示されていることを評価したい。

障害者総合支援法に基づく障害支援区分、自立支援医療、居宅介護、就労移行支援、補装具、日常生活用具に関する解説をはじめ、介護保険法、年金制度（障害年金）、「難病の患者に対する医療等に関する法律」などの記述もあり、関連する制度を理解して行政の福祉サービスを活用し、適切な生活訓練、就労支援につなげることも可能となる。

加えて、就学前から初等中等教育、大学などへの進学に至る学校教育の制度と合理的配慮といった、障害者の生活を支える基本となる教育的支援の重要性にも言及されていることに注目したい。

最終章では、医療機関以外の施設との連携や、聴覚障害、四肢の運動機能障害、知的障害、高次脳機能障害を重複する障害者のケアのポイントが示されており、障害者ケアに携わる者として、広く深い知識を習得する重要性が示されている。

本書は、人の視覚を守ることを専門とする眼科医療者の使命を説き、ロービジョンケアの本質に迫る書籍である。

しらね眼科院長
白根 雅子

B5・頁440 2024年03月
定価：16,500円（本体15,000円＋税10%）
[ISBN978-4-260-04780-7] 医学書院刊